

在宅医療・介護に関するアンケート調査結果

医療福祉連携推進課

1 調査目的

県では、本人が可能な限り、住み慣れた地域や自宅で療養生活を送れるよう、市町村が行う医療・介護の提供体制づくりの支援を進めています。

そこで、県民の皆さんの在宅医療・介護についての意識や生活の現状を把握し、今後の施策の参考とさせていただくため、アンケート調査を実施しました。

2 調査対象等

調査対象: 県政モニター485人(うちインターネットモニター278人)

調査方法: 郵送及びインターネット

調査期間: 令和元年8月21日～9月4日

回収結果: 408人(回収率84.1%)

構成比はパーセントで表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。

そのため、合計が100%にならない場合があります。

3 結果概要

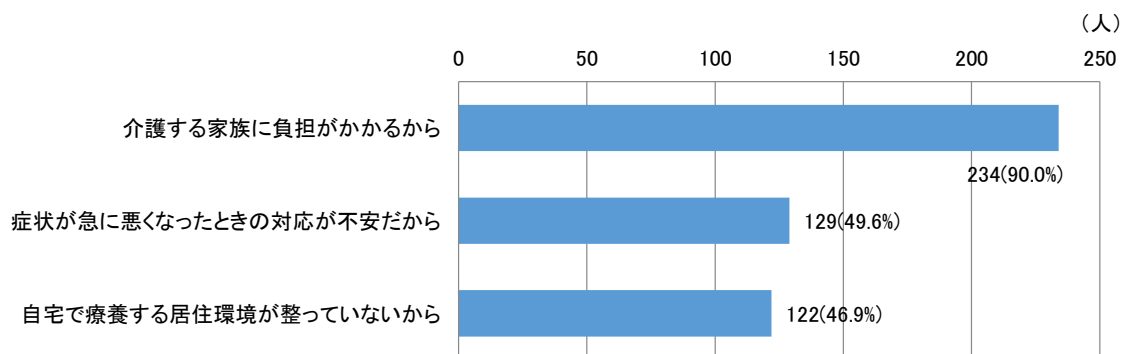
○希望する療養場所について

死期が迫っている場合に療養する場所について「自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟に入院したい」(29.3%)、「自宅で療養して、必要になれば医療機関に入院したい」(20.8%)、「最期まで自宅で療養したい」(13.2%)を合わせて63.3%と在宅療養を希望する割合が高かった。

○自宅での療養について

死期が迫っている場合に最期まで自宅で療養することについて、「困難である」が63.6%と最も高かった。

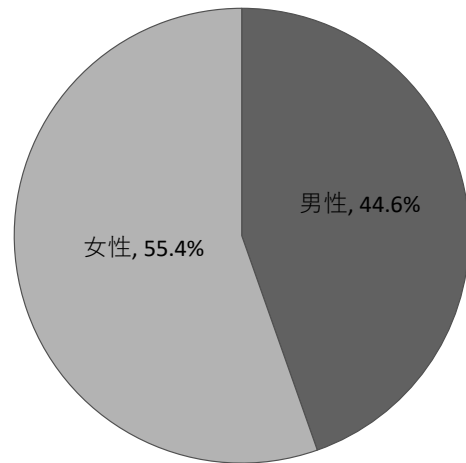
そのうちの90.0%(全体の57.4%)が「介護する家族に負担がかかるから」を困難な理由としており、次いで「症状が急に悪くなったときの対応が不安だから」が49.6%(全体の31.6%)、「自宅で療養する居住環境が整っていないから」が46.9%(全体の29.9%)の順に高かった。



4 回答者属性

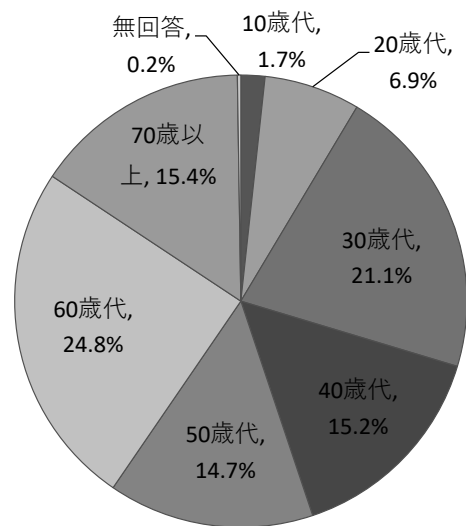
(1) 性別

	人数	割合
男性	182	44.6%
女性	226	55.4%
計	408	100.0%



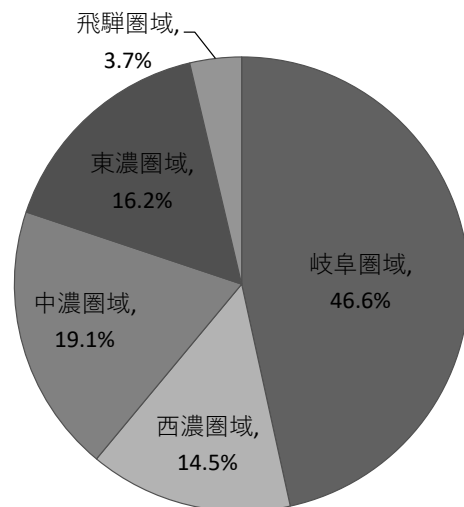
(2) 年代別

	人数	割合
10歳代	7	1.7%
20歳代	28	6.9%
30歳代	86	21.1%
40歳代	62	15.2%
50歳代	60	14.7%
60歳代	101	24.8%
70歳以上	63	15.4%
無回答	1	0.2%
計	408	100.0%



(3) 居住圏域別

	人数	割合
岐阜圏域	190	46.6%
西濃圏域	59	14.5%
中濃圏域	78	19.1%
東濃圏域	66	16.2%
飛騨圏域	15	3.7%
計	408	100.0%

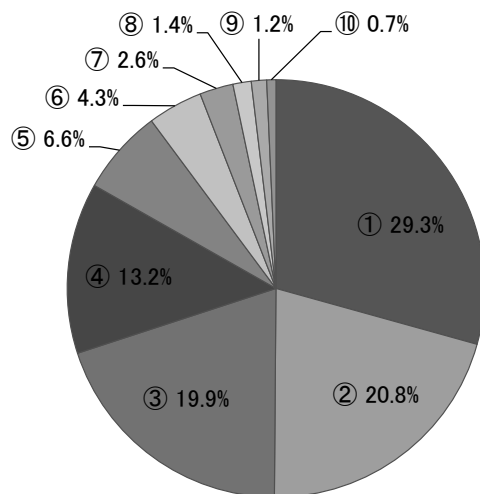


5 調査結果

問1 あなたが、仮に病気等で治る見込みがなくなり死期が迫っている(6カ月程度あるいはそれより短い期間を想定)と告げられた場合、どこで療養することを希望しますか。

	人数	割合
① 自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟(終末期における症状を和らげるための病棟)に入院したい	124	29.3%
② 自宅で療養して、必要になれば医療機関に入院したい	88	20.8%
③ 緩和ケア病棟に入院したい	84	19.9%
④ 最期まで自宅で療養したい	56	13.2%
⑤ 今まで通っていた(または現在入院中の)医療機関に入院したい	28	6.6%
⑥ 専門的医療機関(がんセンターなど)で積極的に治療を受けたい	18	4.3%
⑦ わからない	11	2.6%
⑧ 無回答	6	1.4%
⑨ 老人ホーム等の介護施設に入所したい	5	1.2%
⑩ その他	3	0.7%
計	423	100.0%

※複数回答された方がみえるため回答者数より回答数が多くなっています。



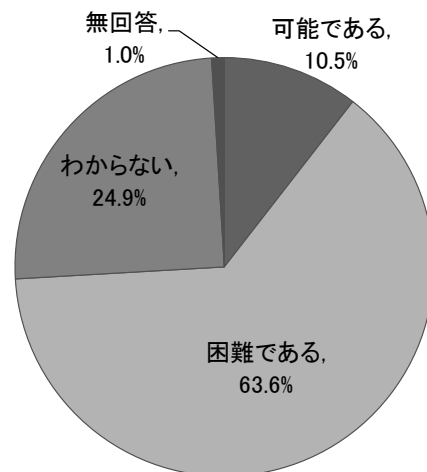
「その他」のうち主なもの

- ・自宅で痛みだけ取っていただき、ホームドクターにお世話になりたい。
- ・家族にあまり負担をかけたくない。

問2 あなたは、最期まで自宅で療養することが可能だと思いますか。

	人数	割合
可能である	43	10.5%
困難である	260	63.6%
わからない	102	24.9%
無回答	4	1.0%
計	409	100.0%

※複数回答された方がみえるため回答者数より回答数が多くなっています。

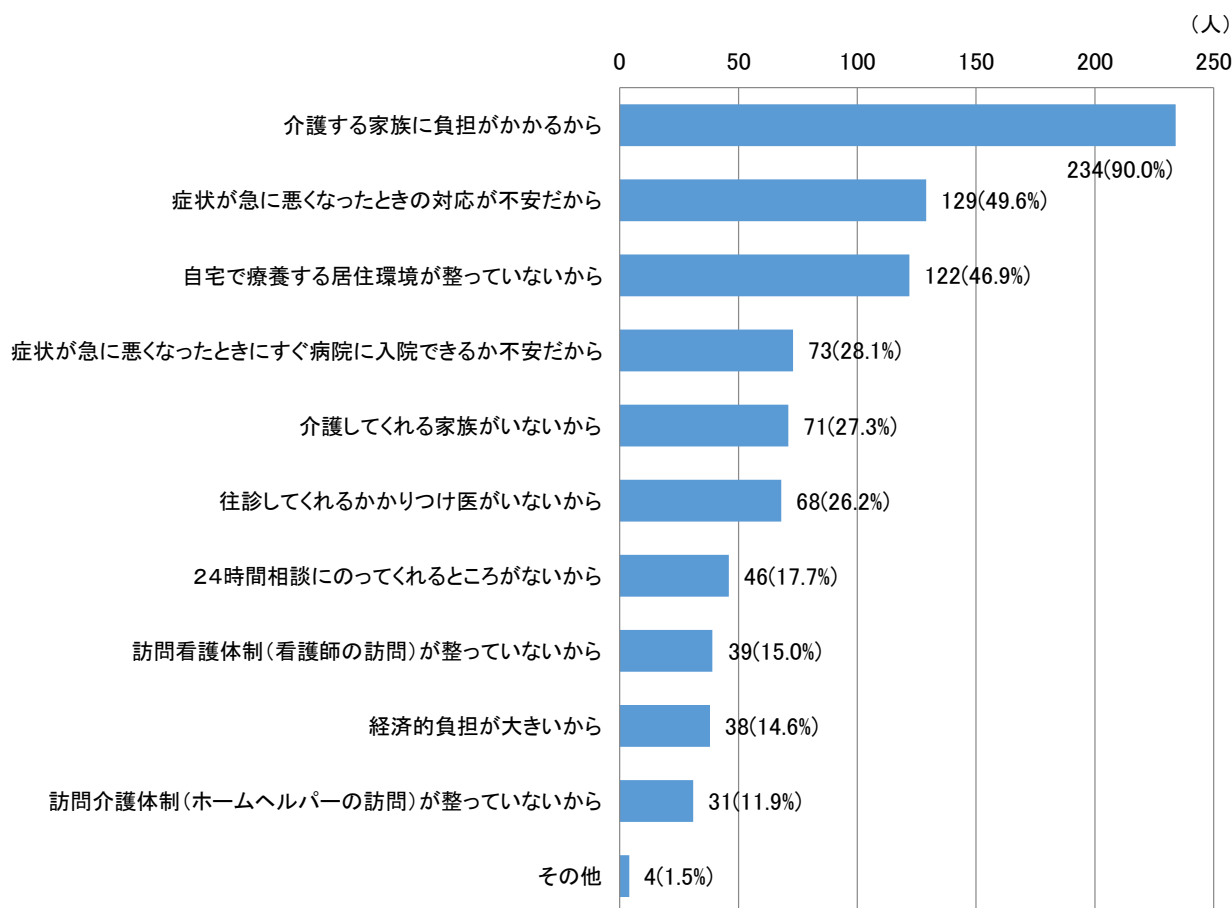


問3 (問2で「2 困難である」と答えた方)

あなたが、困難であると思う理由は何ですか。

(複数回答) 回答者 260 人

	回答数	割合
介護する家族に負担がかかるから	234	90.0%
症状が急に悪くなったときの対応が不安だから	129	49.6%
自宅で療養する居住環境が整っていないから	122	46.9%
症状が急に悪くなったときにすぐ病院に入院できるか不安だから	73	28.1%
介護してくれる家族がないから	71	27.3%
往診してくれるかかりつけ医がないから	68	26.2%
24時間相談にのってくれるところがないから	46	17.7%
訪問看護体制(看護師の訪問)が整っていないから	39	15.0%
経済的負担が大きいから	38	14.6%
訪問介護体制(ホームヘルパーの訪問)が整っていないから	31	11.9%
その他	4	1.5%
計	855	—



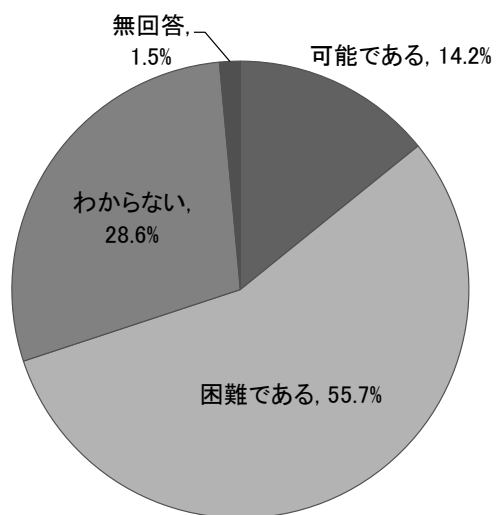
「その他」のうち主なもの

- ・本人だけの意思では決まらないから。
- ・ごく短期であれば可能かもしれないが、長期に及ぶ場合は家族の負担(人的、経済的)が大き過ぎる。

問4 あなたは、自分の家族が最期まで自宅で療養することが可能だと思いますか。

	人数	割合
可能である	58	14.2%
困難である	228	55.7%
わからない	117	28.6%
無回答	6	1.5%
計	409	100.0%

※複数回答された方がみえるため回答者数より回答数が多くなっています。

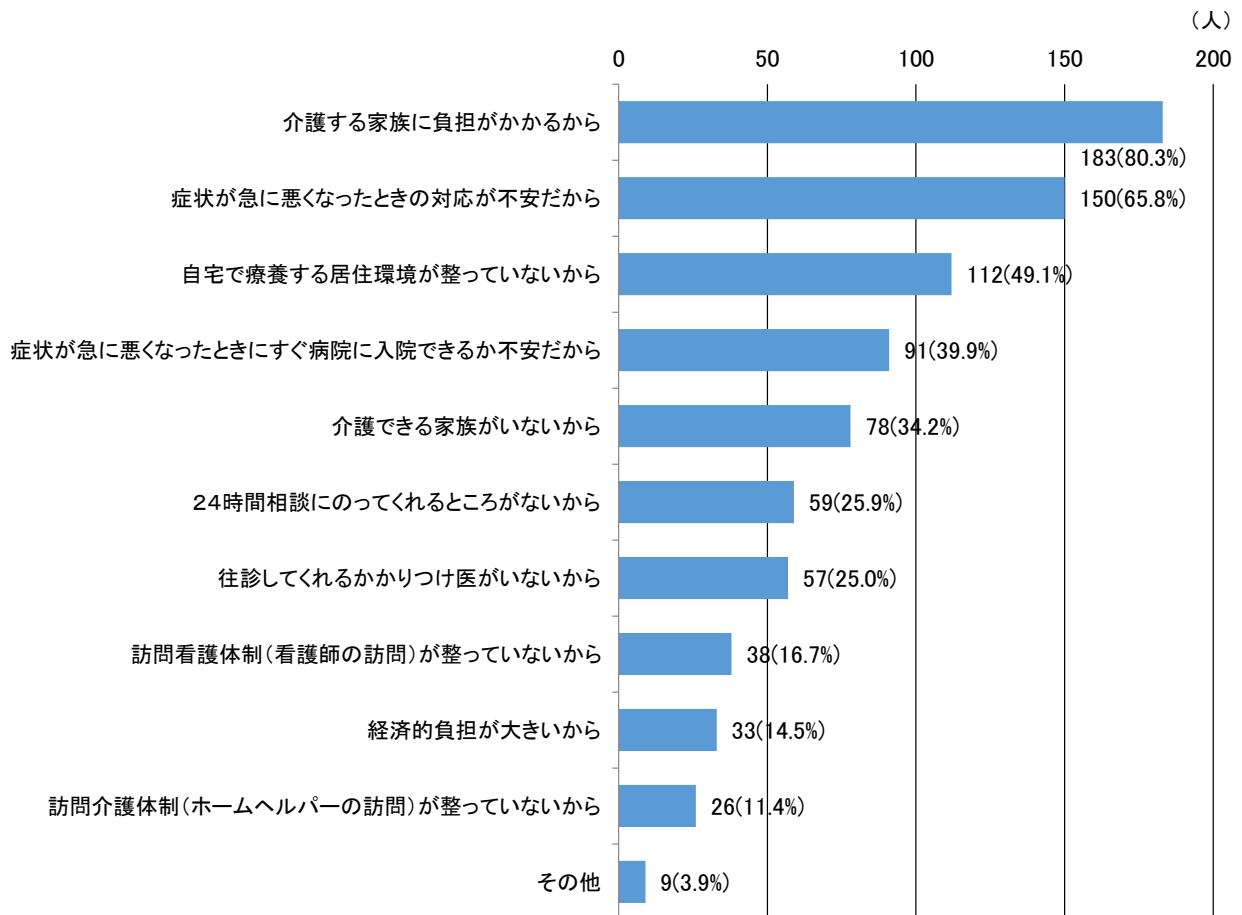


問5 (問4で「2 困難である」と答えた方)

あなたが、困難であると思う理由は何ですか。

(複数回答) 回答者 228 人

	回答数	割合
介護する家族に負担がかかるから	183	80.3%
症状が急に悪くなったときの対応が不安だから	150	65.8%
自宅で療養する居住環境が整っていないから	112	49.1%
症状が急に悪くなったときにすぐ病院に入院できるか不安だから	91	39.9%
介護できる家族がいないから	78	34.2%
24時間相談にのってくれるところがないから	59	25.9%
往診してくれるかかりつけ医がいないから	57	25.0%
訪問看護体制(看護師の訪問)が整っていないから	38	16.7%
経済的負担が大きいから	33	14.5%
訪問介護体制(ホームヘルパーの訪問)が整っていないから	26	11.4%
その他	9	3.9%
計	836	—



「その他」のうち主なもの

- 個々の事例で異なる対応が必要であり、そのための仕組みを構築すべき。
- 家族・勤めがあり必ず介護というのは難しいと思う。
- 介護はする方もされる方も他人や施設の方がいいと思う。身内は感情が入るから、介護疲れが必ずやってくる。

問6 その他、在宅医療または介護についてご意見などがございましたら、お聞かせください。
(主な意見)

○在宅医療・介護の体制整備

- ・へき地のため医者への往診等が困難。
- ・訪問診療、往診のできる医療機関が少ない。
- ・往診、訪問看護ができる体制を県で整えてほしい。

○人材の確保

- ・在宅医療・介護に携わる方がもっと増えると良い。
- ・医療・介護の中間層の人材育成が必要。
- ・人手不足のため、訪問介護の需要に全て応えられない。

○相談体制の整備

- ・在宅医療介護窓口、医療機関等においてマニュアルがあるとよい。
- ・在宅医療について相談できる場所や、経済状況等をケアマネージャー等に気軽に相談できるイベント等があるとよい。

○施設の整備

- ・介護施設の数が少ない。
- ・ホスピスのある病院を増やしてほしい。

○介護者への支援、補助の充実

- ・介護する側の経済的支援、心のケアが必要。
- ・地域の人が支え合って介護が必要な人をサポートできるとよい。
- ・家族だけでの介護は難しいので、専門職の方の知識が必要。

○普及啓発

- ・在宅医療についての情報が少なすぎる。
- ・在宅と在宅以外の経済的負担の違いがわかりやすいとよい。
- ・どこまで備えておけばいいのか、必要な時どこに相談すればよいかかわからない。
- ・広報等で分かりやすい情報の提供をお願いしたい。
- ・在宅医療・介護の勉強ができる資料や場がほしい。

○在宅医療・介護を取り巻く社会的環境

- ・親の在宅介護、看取りはしたが、自分は家族に迷惑をかけたくない。
- ・入院や施設入所で子どもに経済的負担をかけることが不安。

○その他

- ・実際に経験したことがないのでわからない。
- ・小さい子どもを抱えており、今介護もするととなると難しいと思う。
- ・安楽死や延命についての選択ができるようにしてほしい。